

低ノイズ、低入力バイアス電流の 高精度オペアンプ

OP1177/OP2177/OP4177

特長

低オフセット電圧: 60 µV 最大 非常に小さいオフセット電圧ドリフト: 最大 0.7 µV/℃ 低入カバイアス電流: 最大 2 nA 低ノイズ: 8 nV/√Hz (typ) CMRR、PSRR、A_{VO}: 最小 120 dB 低消費電流: アンプあたり 400 µA 両電源動作: ±2.5 V~±15 V ユニティ・ゲイン安定 位相反転なし 電源電圧を超える入力に対する内部保護

アプリケーション

無線基地局制御回路
 光ネットワーク制御回路
 計装機器
 センサーおよび制御
 熱電対
 抵抗熱検出器 (RTD)
 ストレーン・ブリッジ
 シャント電流計測
 高精度フィルタ

ピン配置



概要

OPx177 ファミリーは、極めて低いオフセット電圧とドリフト、低入力バイアス電流、低ノイズ、低消費電力を持つ、非常に高精度のシングル、デュアル、クワッドのアンプから構成されています。出力は1000 pF以上の容量負荷で外部補償なしで安定です。電源電流は 30 V でアンプあたり 500 μ A 以下です。内蔵の 500 Ω 直列抵抗で入力を保護しているため、位相反転なしで両電源を数ボルト超える入力信号レベルまで許容できます。

非常に小さいオフセット電圧を持つこれまでの高電圧アンプと は異なり、OP1177 (シングル) アンプと OP2177 (デュアル) ア ンプは小型の8ピン表面実装 MSOPパッケージまたは8ピン・ ナローSOIC パッケージを採用しています。OP4177 (クワッド) は TSSOP パッケージまたは14 ピン・ナローSOIC パッケージ を採用しています。さらに、MSOP パッケージと TSSOP パッ ケージでの仕様性能は、SOIC パッケージでの性能と同じです。 MSOP パッケージと TSSOP パッケージはテープまたはリールでのみ出荷しています。

OPx177 ファミリーは、表面実装パッケージの高精度アンプで最 も広い温度範囲を提供しています。すべてのバージョンは、最 も厳しい動作環境に対して-40℃~+125℃ で動作が規定されて います。

これらのアンプのアプリケーションとしては、高精度ダイオ ード電力測定、電圧レベルと電流レベルの設定、光および無 線伝送システムでのレベル検出などがあります。その他のア プリケーションとしては、ライン給電型および携帯型の計装 機器および制御機器 (熱電対、RTD、ストレーン・ブリッジ、 その他のセンサー・シグナル・コンデショニング) および高精度 フィルタなどがあります。

アナログ・デバイセズ社は、提供する情報が正確で信頼できるものであることを期していますが、その情報の利用に 関して、あるいは利用によって生じる第三者の特許やその他の権利の侵害に関して一切の責任を負いません。また、 アナログ・デバイセズ社の特許または特許の権利の使用を明示的または暗示的に許諾するものでもありません。仕様 は、予告なく変更される場合があります。本紙記載の商標および登録商標は、それぞれの所有者の財産です。 ※日本語版資料は REVISION が古い場合があります。最新の内容については、英語版をご参照ください。 ©2001-2009 Analog Devices, Inc. All rights reserved.

Rev. G

アナログ・デバイセズ株式会社

本 社/〒105-6891 東京都港区海岸 1-16-1 ニューピア竹芝サウスタワービル 電話 03 (5402) 8200 大阪営業所/〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 3-5-36 新大阪トラストタワー 電話 06 (6350) 6868

目次

特長1
アプリケーション1
ピン配置1
概要1
改訂履歷2
仕様3
電気的特性3
電気的特性4
絶対最大定格5
熱抵抗5
代表的な性能特性
機能説明14
ソース抵抗を含む総合ノイズ14
ゲインの直線性14
入力過電圧保護機能15
出力位相の反転15
セトリング・タイム15

改訂履歴

11/09—Rev. F to Rev. G	
Changes to Figure 64	19
Changes to Ordering Guide	24
Updated Outline Dimensions	
5/09—Rev. E to Rev. F	
Changes to Figure 64	19
Changes to Ordering Guide	24
10/07—Rev. D to Rev. E	
Changes to General Description	1
Changes to Table 4	5
Updated Outline Dimensions	22
7/06—Rev. C to Rev. D	
Changes to Table 4	5
Changes to Figure 51	14
Changes to Figure 52	15
Changes to Figure 54	16
Changes to Figure 58 to Figure 61	17
Changes to Figure 62 and Figure 63	
Changes to Figure 64	19
Changes to Figure 65 and Figure 66	20

	過負荷回復時間	15
	THD +ノイズ	16
	容量負荷の駆動	16
	浮遊入力容量の補償	17
	電磁干渉の削減	17
	適切なボード・レイアウト	18
	ディファレンス・アンプ	18
	高精度熱電対アンプ	19
	低消費電力の直線性 RTD	19
	シングル・オペアンプ・ブリッジ	20
-	アクティブ・フィルタの実現	21
	バンドパス KRC または Sallen-Key フィルタ	21
	チャンネル・セパレーション	21
	ノイズ・ダイナミックスとフリッカ・ノイズの参考資料.	21
\$	外形寸法	22
	オーダー・ガイド	24

Changes to Figure 67 and Figure 68	
Removed SPICE Model Section	
Updated Outline Dimensions	
Changes to Ordering Guide	
4/04—Rev. B to Rev. C	
Changes to Ordering Guide	4
Changes to TPC 6	5
Changes to TPC 26	7
Updated Outline Dimensions	
4/02—Rev. A to Rev. B	
Added OP4177	Global
Edits to Specifications	2
Edits to Electrical Characteristics Headings	4
Edits to Ordering Guide	4
11/01—Rev. 0 to Rev. A	
Edit to Features	1
Edits to TPC 6	5
7/01 Devision 0: Initial Version	

7/01—Revision 0: Initial Version

仕様

電気的特性

特に指定がない限り、 $V_S = \pm 5.0 V$ 、 $V_{CM} = 0 V$ 、 $T_A = 25^{\circ}C_{\circ}$

表1.

Parameter	Symbol	Conditions	Min	Typ ¹	Max	Unit
INPUT CHARACTERISTICS						
Offset Voltage						
OP1177	Vos			15	60	μV
OP2177/OP4177	Vos			15	75	μV
OP1177/OP2177	Vos	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$		25	100	μV
OP4177	Vos	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$		25	120	μV
Input Bias Current	IB	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$	-2	+0.5	+2	nA
Input Offset Current	I _{OS}	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$	-1	+0.2	+1	nA
Input Voltage Range			-3.5		+3.5	v
Common-Mode Rejection Ratio	CMRR	$V_{CM} = -3.5 \text{ V}$ to $+3.5 \text{ V}$	120	126		dB
		$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$	118	125		dB
Large Signal Voltage Gain	A _{vo}	$R_L = 2 \text{ k}\Omega$, $V_O = -3.5 \text{ V}$ to $+3.5 \text{ V}$	1000	2000		V/mV
Offset Voltage Drift						
OP1177/OP2177	$\Delta V_{OS}/\Delta T$	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$		0.2	0.7	μV/°C
OP4177	$\Delta V_{OS}/\Delta T$	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$		0.3	0.9	μV/°C
OUTPUT CHARACTERISTICS						
Output Voltage High	V _{OH}	$I_L = 1 \text{ mA}, -40^{\circ}\text{C} \le T_A \le +125^{\circ}\text{C}$	+4	+4.1		v
Output Voltage Low	V _{OL}	$I_L = 1 \text{ mA}, -40^{\circ}\text{C} \le T_A \le +125^{\circ}\text{C}$		-4.1	-4	V
Output Current	I _{OUT}	$V_{DROPOUT} < 1.2 V$		±10		mA
POWER SUPPLY						
Power Supply Rejection Ratio						
OP1177	PSRR	$V_s = \pm 2.5 \text{ V}$ to $\pm 15 \text{ V}$	120	130		dB
		$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$	115	125		dB
OP2177/OP4177	PSRR	$V_S=\pm 2.5~V$ to $\pm 15~V$	118	121		dB
		$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$	114	120		dB
Supply Current per Amplifier	I _{SY}	$V_0 = 0 V$		400	500	μΑ
		$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$		500	600	μΑ
DYNAMIC PERFORMANCE						
Slew Rate	SR	$R_L = 2 k\Omega$		0.7		V/µs
Gain Bandwidth Product	GBP			1.3		MHz
NOISE PERFORMANCE						
Voltage Noise	e _n p-p	0.1 Hz to 10 Hz		0.4		μV p-p
Voltage Noise Density	en	f = 1 kHz		7.9	8.5	nV/√Hz
Current Noise Density	in	f = 1 kHz		0.2		pA/√Hz
MULTIPLE AMPLIFIERS CHANNEL						
SEPARATION	Cs	DC		0.01		$\mu V/V$
		f = 100 kHz		-120		dB

¹ typ 値は、平均値から1標準偏差値以内の全デバイスをカバーします。 多くの競合他社のデータシートで typ 値として記載される平均値は、正値と負値を持つことが できるパラメータに対する非現実的な小さい予測値を与えます。

電気的特性

特に指定がない限り、 $V_S = \pm 15 V$ 、 $V_{CM} = 0 V$ 、 $T_A = 25^{\circ}C_{\circ}$

表2.

Parameter	Symbol	Conditions	Min	Typ ¹	Max	Unit
INPUT CHARACTERISTICS						
Offset Voltage						
OP1177	Vos			15	60	μV
OP2177/OP4177	Vos			15	75	μV
OP1177/OP2177	Vos	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$		25	100	μV
OP4177	Vos	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$		25	120	μV
Input Bias Current	IB	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$	-2	+0.5	+2	nA
Input Offset Current	I _{OS}	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$	-1	+0.2	+1	nA
Input Voltage Range			-13.5		+13.5	V
Common-Mode Rejection Ratio	CMRR	$V_{CM} = -13.5 \text{ V to } +13.5 \text{ V},$				
		$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$	120	125		dB
Large Signal Voltage Gain	A _{VO}	$R_L = 2 \text{ k}\Omega$, $V_O = -13.5 \text{ V}$ to +13.5 V	1000	3000		V/mV
Offset Voltage Drift						
OP1177/OP2177	$\Delta V_{OS}/\Delta T$	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$		0.2	0.7	μV/°C
OP4177	$\Delta V_{OS}/\Delta T$	$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$		0.3	0.9	μV/°C
OUTPUT CHARACTERISTICS						
Output Voltage High	V _{OH}	$I_L = 1 \text{ mA}, -40^{\circ}\text{C} < T_A < +125^{\circ}\text{C}$	+14	+14.1		v
Output Voltage Low	V _{OL}	$I_L = 1 \text{ mA}, -40^{\circ}\text{C} < T_A < +125^{\circ}\text{C}$		-14.1	-14	v
Output Current	IOUT	$V_{DROPOUT} < 1.2 V$		± 10		mA
Short-Circuit Current	I _{SC}			±25		mA
POWER SUPPLY						
Power Supply Rejection Ratio						
OP1177	PSRR	$V_S = \pm 2.5 \text{ V}$ to $\pm 15 \text{ V}$	120	130		dB
		$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$	115	125		dB
OP2177/OP4177	PSRR	$V_s = \pm 2.5 \text{ V}$ to $\pm 15 \text{ V}$	118	121		dB
		$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$	114	120		dB
Supply Current per Amplifier	I _{SY}	$V_0 = 0 V$		400	500	μΑ
		$-40^{\circ}C < T_A < +125^{\circ}C$		500	600	μΑ
DYNAMIC PERFORMANCE						
Slew Rate	SR	$R_L = 2 k\Omega$		0.7		V/µs
Gain Bandwidth Product	GBP			1.3		MHz
NOISE PERFORMANCE						
Voltage Noise	e _n p-p	0.1 Hz to 10 Hz		0.4		μV p-p
Voltage Noise Density	en	f = 1 kHz		7.9	8.5	nV/√Hz
Current Noise Density	in	f = 1 kHz		0.2		pA/√Hz
MULTIPLE AMPLIFIERS CHANNEL						
SEPARATION	Cs	DC		0.01		$\mu V/V$
		f = 100 kHz		-120		dB

¹ typ 値は、平均値から1標準偏差値以内の全デバイスをカバーします。多くの競合他社のデータシートで typ 値として記載される平均値は、正値と負値を持つことが できるパラメータに対する非現実的な小さい予測値を与えます。

絶対最大定格

表3.

Parameter	Rating
Supply Voltage	36 V
Input Voltage	$V_{S^-} \ to \ V_{S^+}$
Differential Input Voltage	±Supply Voltage
Storage Temperature Range	
R, RM, and RU Packages	$-65^{\circ}C$ to $+150^{\circ}C$
Operating Temperature Range	
OP1177/OP2177/OP4177	-40°C to +125°C
Junction Temperature Range	
R, RM, and RU Packages	$-65^{\circ}C$ to $+150^{\circ}C$
Lead Temperature, Soldering (10 sec)	300°C

上記の絶対最大定格を超えるストレスを加えるとデバイスに恒 久的な損傷を与えることがあります。この規定はストレス定格 の規定のみを目的とするものであり、この仕様の動作のセクシ ョンに記載する規定値以上でのデバイス動作を定めたものでは ありません。デバイスを長時間絶対最大定格状態に置くとデバ イスの信頼性に影響を与えます。

熱抵抗

θ_{JA}はワーストケース条件で規定。すなわち表面実装パッケージの場合、デバイスを回路ボードにハンダ付けした状態で規定。

表4.熱抵抗

Package Type	θ_{JA}	θ_{JC}	Unit
8-Lead MSOP (RM-8) ¹	190	44	°C/W
8-Lead SOIC_N (R-8)	158	43	°C/W
14-Lead SOIC_N (R-14)	120	36	°C/W
14-Lead TSSOP (RU-14)	240	43	°C/W

¹ MSOP はテープまたはリールでのみ供給しています。

ESD の注意



ESD(静電放電)の影響を受けやすいデバイスで す。電荷を帯びたデバイスや回路ボードは、検知さ れないまま放電することがあります。本製品は当社 独自の特許技術である ESD 保護回路を内蔵してはい ますが、デバイスが高エネルギーの静電放電を被っ た場合、損傷を生じる可能性があります。したがっ て、性能劣化や機能低下を防止するため、ESD に対 する適切な予防措置を講じることをお勧めします。



図7.入力オフセット電圧の分布



図8.入力オフセット電圧ドリフトの分布



図9.入力バイアス電流の分布



図10.負荷電流対電源レールまで近づく出力電圧



図11.入力バイアス電流の温度特性



図12.オープン・ループ・ゲインおよび位相シフトの周波数特性



図13.クローズド・ループ・ゲインの周波数特性



図14.出力インピーダンスの周波数特性



図15.大信号過渡応答



図16.小信号過渡応答



図17.負荷容量対小信号オーバーシュート



図18.正の過電圧回復時間









図21.PSRR の周波数特性



図22.0.1 Hz~10 Hz での入力電圧ノイズ



図23.電圧ノイズ密度の周波数特性







図31.負荷電流対電源レールまで近づく出力電圧



図32.オープン・ループ・ゲインおよび位相シフトの周波数特性



図33.クローズド・ループ・ゲインの周波数特性



図34.出力インピーダンスの周波数特性



図35.大信号過渡応答



図36.小信号過渡応答

OUTPUT

100k

1M

V_{SY} = ±5V

10M

1M

02627-042

TIME (200µs/DIV)

V_S = ±5V

 $A_V = 1$ $R_L = 10k\Omega$

V_{SY} = ±5V

02627-040

02627-041

10M



図42.PSRRの周波数特性

10k

111

+PSRR

-PSRR

100k



図43.0.1 Hz~10 Hz での入力電圧ノイズ



図44.電圧ノイズ密度の周波数特性



図45.短絡電流の温度特性



図46.出力電圧振幅の温度特性



図47.入力オフセット電圧の温度特性



図48.電源電流の温度特性



図49.電源電圧対電源電流



図50.チャンネル・セパレーションの周波数特性

機能説明

OPx177 シリーズは、アナログ・デバイセズの第四世代の業界標 準 OP07 アンプ・ファミリーです。OPx177 は、極めて小さいオ フセット電圧と非常に小さい入力バイアス電流の組み合わせを 持つ、高精度低ノイズのオペアンプです。JFET アンプとは異な り、低いバイアス電流と低いオフセット電流は 125°C までの周 囲温度に対して比較的安定です。

アナログ・デバイセズ独自のプロセス技術とリニア・デザイン 技術により、OP07、OP17、OP177より優れた性能を持つ、8 ピ ン小型 MSOP パッケージの高電圧アンプが製造されています。 小型にもかかわらず、OPx177 では、低い広帯域ノイズ、広い入 力および出力電圧範囲、小さい入力バイアス電流、位相反転な しなどの多くの改善が行われています。

OPx177 は、プラスチック表面実装パッケージの同様なデバイス と同等の動作仕様温度範囲を持っています。これは、PCB とシ ステム全体のサイズの小型化が進むと内部システム温度が上昇 するため、ますます重要になります。消費電力は OP177 の 1/4 に減少し、帯域幅とスルーレートは 2 倍になりました。低消費 電力と温度に対して非常に安定な性能も、ウォームアップ・ド リフト誤差を小さいレベルにすることに役立っています。

重い負荷時のオープン・ループ・ゲインの直線性は、OPA277 な どの競合デバイスより優れているため、DC 精度が改善され、 高いクローズド・ループ・ゲインを持つ回路での歪みが減少し ます。入力は、両電源レールを超える過電圧状態から内部で保 護されています。

すべての高性能アンプと同様に、最大性能は適切な回路と PCB のガイドラインに従うことにより実現されます。次のセクショ ンでは、様々なアプリケーション条件で OPx177 を最大限活用す る実用的なアドバイスを提供します。

ソース抵抗を含む総合ノイズ

OPx177 の入力電流ノイズと入力バイアス電流は小さいため、大きな入力ソース抵抗を持つ回路に対して役立ちます。入力オフ セット電圧は、ソース抵抗 500 Ω 当たり最大1 μV 未満の割合で 増加します。

OPx177の総合ノイズ密度は次式で与えられます。

$$e_{n,TOTAL} = \sqrt{e_n^2 + (i_n R_S)^2 + 4kTR_S}$$

ここで、

 e_n は入力電圧ノイズ密度。 i_n は入力電流ノイズ密度。 R_S は非反転ピンのソース抵抗。 kはボルツマン定数(1.38 × 10²³ J/K)。 T は、絶対温度で表した周囲温度(T = 273 + °C)。 $R_s < 3.9 k\Omega$ の場合、 e_n が支配的で、

 $e_{n,TOTAL} \approx e_n$

3.9 k Ω < R_s < 412 k Ω の場合、アンプの電圧ノイズ、ソース抵抗 を経由して変換されるアンプの電流ノイズ、ソース抵抗からの サーマル・ノイズはすべて、総合ノイズに寄与します。

 $R_{s} > 412 k\Omega$ の場合、電流ノイズが支配的で、

 $e_{n,TOTAL} \approx i_n R_S$

特定帯域幅での等価総合 rms ノイズは次のように表されます。

$$e_n = \left(e_{n, TOTAL} \right) \sqrt{BW}$$

ここで、BWはHzで表した帯域幅です。

前の解析は、50 Hz より高い周波数で有効です。これより低い周 波数を考慮する場合、フリッカ・ノイズ (1/f ノイズとも呼ばれ ます)を考慮する必要があります。

ノイズ計算については、バンドパス KRC または Sallen-Key フィ ルタのセクションを参照してください。

ゲインの直線性

ゲインの直線性は、クローズド・ループ構成で誤差を小さくし ます。ゲイン・カーブが直線に近いほど、入力信号範囲での最 大誤差が小さくなります。これは、特に高いクローズド・ルー プ・ゲインを持つ回路に当てはまります。

OP1177 は、重い負荷でも優れたゲイン直線性を持ちます(図 51 参照)。この性能を図 52 に示す OPA277 と比較してください。 両デバイスは、 $R_L = 2 k\Omega$ の同じ条件で測定しています。 OP2177 (デュアル)には、低い電圧で歪みが実質的にありません。 OP1177 の性能を、複数の電源電圧と種々の負荷で OPA277 に比 較すると、OP1177 の方が遥かに優れています。



図51.ゲインの直線性



入力過電圧保護機能

入力電圧が正または負の電源電圧を超える場合、大部分のアン プでは損傷を防止するために外付け抵抗が必要になります。 OPx177 には、電源電圧より 2.5 V まで高い電圧がピンに入力さ れても損傷を与えないようにする保護回路が内蔵されています。 電圧が電源より 2.5 V 以上超える場合、入力に直列に抵抗を追 加してください。抵抗値は次式で求めることができます。

$$\frac{\left(H_{\mathcal{Q}} - H_{E}\right)}{D_{E} + 500\,\Omega} \le 5\,\mathrm{mA}$$

OPx177の1nA以下の低入力オフセット電流では、両入力に直列に $5k\Omega$ 抵抗を接続しても、入力オフセット電圧の増加は 5μ V以下であるため、回路の全体ノイズ性能への影響は無視できます。

5 kΩ により両電源を 27 V 以上超える入力から保護されます。ノ イズ対ソース抵抗の詳細については、THD +ノイズ のセクショ ンを参照してください。

出力位相の反転

位相反転とは、アンプ伝達関数での極性変化のことを意味しま す。入力に加えられる電圧が最大同相モード電圧より大きい場 合に、多くのオペアンプは位相反転を示します。場合によって は、アンプに恒久的な損傷を与えることがあります。帰還ルー プでは、システム・ロックアップまたは装置の損傷が発生しま す。OPx177では、入力電圧が電源を超える場合でも位相反転問 題は発生しません。



図53.位相反転なし

セトリング・タイム

セトリング・タイムとは、パルスをアンプ入力に加えた後に、 アンプ出力が最終値に到達し、かつその最終値の所定パーセン ト値以内に留まるまでに要する時間を意味します。これは、ア ンプが ADC 入力または DAC 出力のバッファとなっている計測 回路と制御回路では特に重要です。

アンプ回路のセトリング・タイムを小さくするためには、電源 の適切なバイパスと回路部品の適切な選択を行なってください。 抵抗は金属皮膜タイプを使う必要があります。これは、漂遊容 量と漂遊インダクタンスが巻線タイプより小さいためです。コン デンサは、誘電吸収を小さくするため、ポリスチレン・タイプ またはポリカーボネート・タイプを使う必要があります。

電源からの配線はできるだけ短くして、容量とインダクタンス を小さくする必要があります。非反転ユニティ・ゲインで OPx177の入力に 10 V ステップを加えたときの 0.01% (1 mV)へ のセトリング・タイムは約 45 μs です。

過負荷回復時間

過負荷回復は、アンプ出力電圧が飽和状態から線形応答領域に 回復するために要する時間として定義されます。一般的な例と しては、回路伝達関数から要求される出力電圧がアンプの最大 出力電圧能力を超えている場合があります。クローズド・ルー プ・ゲインが 2 のアンプに 10 V 入力を加える場合、20 V の出 力電圧が要求されます。これでは OPx177 が±15 V 電源で動作す る場合に出力電圧範囲を超えるため、出力は飽和します。

この回復時間は、大きな過渡電圧が存在する中で小さい信号を 増幅する必要があるオペアンプを持つ多くのアプリケーション で特に重要になります。



図54.過負荷回復時間のテスト回路

図 18 に、OP1177の正側の過負荷回復を示します。100%を超え る過駆動の後に、出力は4µs以内に回復しています。

OP1177の負側の過負荷回復は 1.4 µs です(図 19 参照)。

THD +ノイズ

OPx177 は非常に小さい総合高調波歪みを持っています。これは 優れたゲイン直線性を持っていることを示し、**OPx177** は高いク ローズド・ループ・ゲインを持つ高精度回路に対する最適な選 択肢になっています。

図 55 に、ユニティ・ゲイン(歪みのワーストケース構成)の OPx177 は、約 0.00025% の歪みを持っていることを示します。



図55.THD + Nの周波数特性

容量負荷の駆動

OPx177 はすべてのゲインで本来安定であるため、大きな容量負荷を発振なしで駆動することができます。OPx177 は外部補償なしで、すべての構成で最大 1000 pF までの容量負荷を安全に駆動します。すべてのアンプと同様に、ユニティ・ゲインで大きな容量負荷を駆動する場合には、安定性を強化する回路の追加が必要です。

この場合、スナバ回路を使って発振を防止し、オーバーシュートを小さくします。この方法の大きな利点は、抵抗 Rsが帰還ループ内にないため、出力振幅が小さくならないことです。

図 56 に、400 mV パルスに応答する OPx177 の出力オシロスコー プ・プロットを示します。負荷容量は 2 nF です。この回路は、 ゲイン=1 (安定性のワーストケース)に設定してあります。

図 58 に示すように、R-C 回路と負荷容量 (C_L)を並列接続すると、 アンプは発振または大きなオーバーシュートなしに大きな値の C_Lを駆動できるようになります。

スナバ回路を使用すると、リンギングはなくなり、オーバーシュートは 27%から 5%へ小さくなっています。

最大 200 nF までの容量負荷に対する Rs と Cs の最適値を表 5 に示 します。その他の容量負荷値は、実験的に求めることができま す。

表5.容量負荷の最適値

CL	R _s	Cs
10 nF	20 Ω	0.33 μF
50 nF	30 Ω	6.8 nF
200 nF	200 Ω	0.47 μF



図56.スナバ回路なしでの容量負荷駆動



図57.スナバ回路使用時の容量負荷駆動



図58.スナバ回路の構成

注意:スナバを使っても、大きな容量負荷による帯域幅の損失 を取り戻すことはできません。

浮遊入力容量の補償

オペアンプ回路の実効入力容量(C)は、入力ピンの間の内部差動 容量、各入力とグラウンドとの間の内部同相モード容量、寄生 容量を含む外部容量の3つの成分から構成されています。図59 の回路では、信号周波数が高くなるとクローズド・ループ・ゲ インが増加します。回路の伝達関数は、

$$1 + \frac{R2}{R1} \left(1 + sC_t R1 \right)$$

ゼロ点は、

$$s = \frac{R2 + RI}{R2RIC_t} = \frac{1}{2\pi (RI/R2)C_t}$$

R1 と R2 の値に応じて、クローズド・ループ・ゲインのカット オフ周波数はクロスオーバー周波数より十分低くできます。こ の場合、位相マージン (Φ_M)が大きく損なわれ、大きなリンギン グまたは発振が発生します。

この問題を克服する簡単な方法は、図 60 に示すように帰還パス にコンデンサを挿入することです。

その結果得られる極の位置を変えて、位相マージンを調整する ことができます。

 $C_f = (R1/R2) C_t$ に設定すると、90°の位相マージンが得られます。



図59.浮遊入力容量



図60.帰還コンデンサを使う補償

電磁干渉の削減

多くの方法を使って、アンプ回路に対する EMI の影響を減らす ことができます。

1 つの方法は、いずれかの入力の漂遊信号をアンプの他方の入 カへ入力することです。その結果、アンプの CMRR に従って信 号が除去されます。

これは通常、コンデンサをアンプの各入力間に挿入することにより実現されます(図 61 参照)が、この方法では、容量値に応じて 不安定性も生じます。



図61.EMIの削減

抵抗をコンデンサに直列に接続すると (図 62 参照)、DC ルー プ・ゲインが増加して出力誤差が小さくなります。ブレーク・ポ イント (R-C から発生)をオペアンプの 2 つ目の極の下に配置す ると、位相マージンが改善されるため安定性も改善されます。 特定の位相マージンに対して、次式に従い R は C と独立に選択 することができます。

$$R = \frac{R2}{a(jf_2)} - \left(1 + \frac{R2}{R1}\right)$$

ここで、 aはアンプのオープン・ループ・ゲイン。 f_2 は位相が $a = \Phi_M - 180°$ となる周波数。



図62.入力 R-C 回路を使用する補償

適切なボード・レイアウト

OPx177 は高精度デバイスです。PCB レベルで最適性能を確保 するためには、ボード・レイアウトに注意が必要です。

リーク電流をなくするために、ボード表面をクリーンにして湿 気をなくす必要があります。回路ボードの表面コーティングを 行うと、表面の湿気の蓄積が少なくなり、湿度バリアが構成され て、ボード上の寄生抵抗の減少に役立ちます。

電源パターンを短くし、電源を適切にバイパスすると、重い負荷でAC 信号を駆動する場合などに、出力電流変動による電源の乱れが小さくなります。バイパス・コンデンサをデバイス電源ピンのできるだけ近くに接続します。漂遊容量は、アンプの出力と入力で問題になります。信号パターンは電源ラインから少なくとも 5 mm 離して、ノイズの混入を小さくすることが推奨されます。

PCB を跨ぐ温度変動により、異なる金属が接触するハンダ接続ポ イントとその他のポイントでのジーベック電圧の不一致が発生し、 熱電圧誤差が発生します。これらの熱電対効果を小さくするた め、熱源により両端が等しく温度上昇するように抵抗の向きを 調節してください。入力信号パスに一致する部品番号と部品タ イプを使用している場合、可能な場合には、熱電対接合の番号 とタイプに合わせる必要があります。例えば、ゼロ値抵抗のよ うなダミー部品を使って、反対側入力パスの実抵抗に一致させ ます。一致する部品は互いに近づけて配置し、同じ向きに配置 する必要があります。同じ長さのリードを使って、熱伝導の平 衡状態を維持させます。可能な場合は、PCB 上の発熱源をアン プ入力回路から離します。

グラウンド・プレーンの使用も推奨されます。グラウンド・プレーンを使用すると、EMI ノイズが減り、回路ボードの一定温度の維持に役立ちます。

ディファレンス・アンプ

ディファレンス・アンプは、同相モード除去比 (CMRR)を向上さ せるために高精度回路で使用されます。



図63.ディファレンス・アンプ

次が成立するシングル計装アンプ(図63参照)では、

$$\frac{R4}{R3} = \frac{R2}{RI}$$
$$V_o = \frac{R2}{RI} (V_2 - V_1)$$

比 R2/R1 と R4/R3 との間の不一致により、同相モード除去比の 低下が生じます。

この影響を理解するため、定義として次式を考えます。

$$CMRR = \frac{A_{DM}}{A_{CM}}$$

ここで、ADM は差動ゲイン、ACM は同相モード・ゲイン。

$$\begin{split} A_{DM} &= \frac{V_o}{V_{DIFF}} \text{ is } A_{CM} = \frac{V_o}{V_{CM}} \\ V_{DIFF} &= V_I - V_2 \text{ is } V_{CM} = \frac{1}{2} (V_I + V_2) \end{split}$$

この回路がディファレンス・アンプとして動作するためには、 出力が差動入力信号に比例する必要があります。 図 63 から、

$$V_{O} = -\left(\frac{R2}{RI}\right)V_{I} + \left[\frac{\left(1 + \frac{R2}{RI}\right)}{\left(1 + \frac{R3}{R4}\right)}\right]V_{2}$$

項を並べ替えて前式と組み合わせると、

$$CMRR = \frac{R4R1 + R3R2 + 2R4R2}{2R4R1 - 2R2R3}$$
(1)

R1 に対する CMRR の感度は式 1 で CMRR を R1 で微分すると得られ、

$$\frac{\delta CMRR}{\delta RI} = \frac{\delta}{\delta RI} \left(\frac{RIR4}{2RIR4 - 2R2R3} + \frac{2R2R4 + R2R3}{2RIR4 - 2R2R3} \right)$$
$$\frac{\delta CMRR}{\delta RI} = \frac{1}{2 - \frac{(2R2R3)}{RIR4}}$$

$$R1 \approx$$
" $R2 \approx$ " $R3 \approx$ " $R4 \approx$ "

$$R1 = R4 = R(1 + \delta) \text{ for } R2 = R3 = R(1 - \delta)$$

これらの値を式1に代入すると、

$$5? D_{?;@} \cong \left| \frac{1}{2\delta} \right|$$

ここで、δは抵抗の許容誤差。

抵抗値の許容誤差が小さいほど、高い同相モード除去比が得ら れます(オペアンプの最大 CMRR まで)。

5% 許容誤差の抵抗を使うと、保証可能な最大 CMRR は 20 dB になります。あるいは、0.1% 許容誤差の抵抗を使うと、同相モード除去比は少なくとも 54 dB になります (オペアンプ CMRR × 54 dB の場合)。

OPx177 の CMRR が最小 120 dB であるため、抵抗の一致が大部 分の回路で制約要因になります。トリミング抵抗を使ってディ ファレンス・アンプ回路の抵抗の一致度と CMRR をさらに向上 させることができます。

高精度熱電対アンプ

熱電対は 2 種類の金属線の接触から構成されています。異種金 属から発生する電圧は、

 $V_{TC} = \alpha (T_J - T_R)$

ここで、

T」は高接点の温度。

TRは低接点の温度。

αは熱電対に使用する異種金属に固有なジーベック係数。

VTCは熱電対電圧であり、温度上昇とともに大きくなります。

最大の計測精度を得るためには、熱電対の冷点補償が必要です。 冷点補償を行うときは、銅線を終端接点の近くに(等温ブロック 内部)に使用して 0℃ 点をシミュレーションします。R5 トリミ ング抵抗を使って出力電圧をゼロにするように調整し、銅線を 外します。

OPx177 は、非常に小さいオフセット電圧、優れた PSRR と CMRR、低周波数で低いノイズを持つため、熱電対回路に最適 なアンプです。

このデバイスは、直線性の優れた熱電対回路をつくるために使用することができます。図 64 に示す抵抗 R1、抵抗 R2、ダイオード D1 は、等温ブロック内に実装します。



図64.Kタイプ熱電対アンプ回路

低消費電力の直線性 RTD

シングル・エレメント可変ブリッジの一般的なアプリケーションは、図 65 に示す RTD 温度計用アンプです。ブリッジの励起 電圧は、ブリッジの上部に加えられた 2.5 V リファレンス電圧 から供給されます。

RTD は、0.5℃/mW~0.8℃/mW もの熱抵抗を持ちます。抵抗ド リフトによる誤差を小さくするため、ブリッジの各辺を流れる 電流を小さくする必要があります。この回路では、アンプの電 源電流がブリッジを流れますが、OPx177 の最大電源電流 = 600 µAで、最大抵抗値であっても RTDの消費電力は 0.1 mW以 下です。ブリッジの消費電力による誤差は、0.1℃以下に維持さ れます。

ブリッジのキャリブレーションは、被測定温度の最小値で、出 力がゼロになるように R_Pを調整することにより行われます。

出力振幅をキャリブレーションするときは、フルスケール・ポ テンショメータと直線性ポテンショメータを中心点に設定し、 500℃の温度をセンサーに加えるか、または等価 500℃ RTD 抵 抗に置換えます。

フルスケール・ポテンショメータを 5V 出力になるように調整 します。最後に、250℃または等価 RTD 抵抗を接続して、直線 性ポテンショメータを 2.5V 出力になるように調整します。調 整後、この回路は±0.5℃より優れた精度を実現します。



図65.低消費電力の直線性 RTD 回路

シングル・オペアンプ・ブリッジ

OP1177 は低い入力オフセット電圧ドリフトを持っているため、 RTD シグナル・コンデショニングで使用されるブリッジ・アン プ回路に非常に有効です。計装アンプよりシングル・ブリッ ジ・オペアンプを利用することが経済的であることがあります。 図 66 に示す回路では、オペアンプの出力電圧は、

$$V_{O} = \frac{R2}{R} \left[V_{REF} \left(\frac{\delta}{\frac{RI}{R} + \left(1 + \frac{RI}{R2}\right)(1 + \delta)} \right) \right]$$

ここで、 $\delta = \Delta R/R$ は、ブリッジ抵抗に対する RTD の温度変化に 起因する RTD 抵抗の変化分です。

δ << 1 の場合、前式は次のようになります。

$$V_{O} \cong \left(\frac{R2}{R}\right) V_{REF} \left(\frac{\delta}{1 + \frac{RI}{R} + \frac{RI}{R2}}\right) = \left[\left(\frac{R2}{R}\right) \left(1 + \frac{RI}{R2}\right) + \left(\frac{RI}{R2}\right)\right] V_{REF} \delta$$

V_{REF}一定で、出力電圧はδに比例し、ゲイン・ファクタは、

$$V_{REF}\left(\frac{R2}{R}\right)\left[\left(1+\frac{R1}{R2}\right)+\left(\frac{R1}{R2}\right)\right]$$



図66.シングル・ブリッジ・アンプ

アクティブ・フィルタの実現

バンドパス KRC または Sallen-Key フィルタ

OPx177 は低オフセット電圧と高い CMRR を持つため、図 67 に 示すバンドパス KRC フィルタのような高精度フィルタに対する 優れた選択肢です。このフィルタ・タイプは、ゲインとカット オフ周波数を独立に調整する機能を提供します。

アンプへ入力される同相モード電圧は KRC フィルタ回路への入 力信号により変わるので、歪みを小さくするために高い CMRR が必要とされます。また、OPx177 は低いオフセット電圧を持つ ため、回路ゲインを高く選択したとき、ダイナミックレンジを 広く維持できます。

図 67 に示す回路は、2 つのステージで構成されています。最初 のステージは、シンプルなハイパス・フィルタで、コーナー周 波数 (fc) は、

$$\frac{1}{2\pi\sqrt{5\#5SD\#D8}}$$
(2)

かつ

$$Q = K \sqrt{\frac{RI}{R2}}$$
(3)

ここで、KはDCゲインです。

等しいコンデンサ値を選択すると、感度が小さくなり、式 2 は 次のように簡単になります。

$$\frac{1}{2\pi C\sqrt{R1R2}}$$

Q の値は、ゲイン周波数特性 (過渡応答のリンギング) のピーキ ングを決定します。Q に対して一般に選択される値は、1 に近 い値です。

 $Q = \frac{1}{\sqrt{2}}$ を設定すると、最小ゲイン・ピーキングと最小リンギ

ングが得られます。R1 と R2 の値は式 3 から決定します。 Q = $\frac{1}{\sqrt{2}}$ の場合、回路例では R1/R2 = 2 になります。簡単化のた

め $R1 = 5 k\Omega$ と $R2 = 10 k\Omega$ を選択します。

2 番目のステージはローパス・フィルタで、コーナー周波数は 同様に決定できます。R3=R4=Rの場合、

$$f_C = \frac{1}{2\pi R \sqrt{\frac{C3}{C4}}}$$
 and $Q = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{C3}{C4}}$

チャンネル・セパレーション

隣接チャンネルの入力または出力から発生する信号を除去する ため、シングル・チップ上に複数のアンプが必要となる場合が あります。OP2177の入力とバイアス回路は1つのアンプ・チャ ンネルから別のチャンネルへ信号が混入しないように、デザイ ンされています。 このため、OP2177のチャンネル・セパレー ションは、100 kHz までの周波数に対して-120 dB 以上、1 MHz までの周波数に対しては-115 dB 以上になっています。



図67.2 ステージのバンドパス KRC フィルタ



図68.チャンネル・セパレーションのテスト回路

ノイズ・ダイナミックスとフリッカ・ノイズの参 考資料

S. Franco, Design with Operational Amplifiers and Analog Integrated Circuits. McGraw-Hill, 1998.

Analog Devices, Inc., *The Best of* Analog Dialogue, *1967 to 1991*. Analog Devices, Inc., 1991.

060606-A

外形寸法



図70.14 ピン標準スモール・アウトライン・パッケージ[SOIC_N] ナロー・ボディ (R-14) 寸法: mm (インチ)



図71.8 ピン・ミニ・スモール・アウトライン・パッケージ[MSOP] (RM-8) 寸法: mm



(NO-14) 寸法: mm

オーダー・ガイド

Model	Temperature Range	Package Description	Package Option	Branding
OP1177AR	-40°C to +125°C	8-Lead SOIC_N	R-8	
OP1177ARZ ¹	-40°C to +125°C	8-Lead SOIC_N	R-8	
OP1177ARZ-REEL ¹	-40°C to +125°C	8-Lead SOIC_N	R-8	
OP1177ARZ-REEL7 ¹	-40°C to +125°C	8-Lead SOIC_N	R-8	
OP1177ARM-REEL	-40°C to +125°C	8-Lead MSOP	RM-8	AZA
OP1177ARMZ ¹	-40°C to +125°C	8-Lead MSOP	RM-8	AZA#
OP1177ARMZ-REEL ¹	-40°C to +125°C	8-Lead MSOP	RM-8	AZA#
OP1177ARMZ-R7 ¹	-40°C to +125°C	8-Lead MSOP	RM-8	AZA#
OP2177AR	-40°C to +125°C	8-Lead SOIC_N	R-8	
OP2177AR-REEL	-40°C to +125°C	8-Lead SOIC_N	R-8	
OP2177AR-REEL7	-40°C to +125°C	8-Lead SOIC_N	R-8	
OP2177ARZ ¹	-40°C to +125°C	8-Lead SOIC_N	R-8	
OP2177ARZ-REEL ¹	-40°C to +125°C	8-Lead SOIC_N	R-8	
OP2177ARZ-REEL7 ¹	-40°C to +125°C	8-Lead SOIC_N	R-8	
OP2177ARM-REEL	-40°C to +125°C	8-Lead MSOP	RM-8	B2A
OP2177ARMZ ¹	-40°C to +125°C	8-Lead MSOP	RM-8	B2A#
OP2177ARMZ-REEL ¹	-40°C to +125°C	8-Lead MSOP	RM-8	B2A#
OP2177ARMZ-R7 ¹	-40°C to +125°C	8-Lead MSOP	RM-8	B2A#
OP4177AR	-40°C to +125°C	14-Lead SOIC_N	R-14	
OP4177AR-REEL	-40°C to +125°C	14-Lead SOIC_N	R-14	
OP4177AR-REEL7	-40°C to +125°C	14-Lead SOIC_N	R-14	
OP4177ARZ ¹	-40°C to +125°C	14-Lead SOIC_N	R-14	
OP4177ARZ-REEL ¹	-40°C to +125°C	14-Lead SOIC_N	R-14	
OP4177ARZ-REEL7 ¹	-40°C to +125°C	14-Lead SOIC_N	R-14	
OP4177ARU	-40°C to +125°C	14-Lead TSSOP	RU-14	
OP4177ARU-REEL	-40°C to +125°C	14-Lead TSSOP	RU-14	
OP4177ARUZ ¹	-40°C to +125°C	14-Lead TSSOP	RU-14	
OP4177ARUZ-REEL ¹	-40°C to +125°C	14-Lead TSSOP	RU-14	

³"\"?"TqJU準拠品。%印は鉛フリー製品で上面または下面にマーキング。